

## ヒートルールおよびトイレットブレイクの対応に関して

2025年8月5日  
関東学生テニス連盟

### ヒートルールに関して

- ・WBGT30.1度を超えた場合に、最終セット前に10分間の休憩を取ることが出来る。
- ・WBGT32.2度を超えた場合には、コートレフェリーは主審と両選手に対してその旨を連絡し、偶数ゲームになった時に選手の申し出により1時間の中断を取ることが出来る。また中断に入る前に再度計測を行い、下がっていた場合は適用されない。ヒートブレイクによる中断に関しては、必ずしも取らなければいけないものではない。

中断終了後、以下の通りアップを行ってから開始する。

15分未満 アップなし

15分以上 30分未満 3分間

30分以上 5分間

- ・WBGTの計測は、両校コートレフェリーが試合開始前30分前から1時間ごとに行う。試合開始前に30.1度もしくは32.2度を超えていない場合はヒートルールを適用しない。計測開始してから、30.1度もしくは32.2度を超えた場合に適用される。

- ・ヒートルールは、シングルス、ダブルス両方に適用する事が出来る。

- ・ヒートルールの運用に関しては以下のように行う。

(1) 第2セット終了時に主審が両選手に確認を取り、ヒートルールを適用する。その後、両校のコートレフェリーが選手に付き添い、休憩を行う。

(2) 10分間のヒートブレイク時に両校のコートレフェリーから残り5分から1分おきに選手に伝える。

(3) 主審は第2セット終了時から9分30秒経過した時点で「タイム」をアナウンス。10分00秒でプレーが始められない場合タイムバイオレーション（ウォーニング）、10分25秒でタイムバイオレーション（サービスフォールト又は失点）その後25秒おきに連続してタイムバイオレーションが課せられる。

- ・ヒートルール中はベンチコーチやその他選手など誰かが、選手と会話すること、接触すること、移動に付き添うことは出来ない。あくまで選手1人（ダブルスの場合は2人）に対して、相手校のコートレフェリーがついていくものとする。

・ヒートルール中は主審も審判台を降りて休憩することが出来る。但し、両選手がコートに戻ってくるまでの時間内で行うこと。

・ヒートルール中は以下が可能となる。

- (1) コートレフェリーを介した物資補給
- (2) MTO,MT (但しそれぞれ3分、90秒とする。10分間の時間内で取る事が出来る。)
- (3) トイレ、着替え
- (4) 部室や涼しい部屋での休憩トイレットブレイクに関して

#### トイレットブレイクに関して

・原則 JTA ルールブックに記載されているルールに従うものとする。

TB：3分（トイレに入ってから、出るまで）

着替え：5分（更衣室に入ってから出るまで）

※併用して取る場合には、5分でトイレットブレイクを行う。

・セットチェンジ以外にトイレットブレイクを取った場合も通常のトイレットブレイク同様に1回とカウントする。

・トイレットブレイクはセットブレイクの時にしかとる事が出来ない。しかし主審が緊急性を認めた場合には、エンドチェンジに取る事が出来る。その時間はエンドチェンジ間の90秒以内で行うものとする。90秒を超えた場合には、コードバイオレーション（1回目ウォーニング→2回目失点→3回目ゲームペナルティ）が課せられる。

・主審が緊急性を認めた場合は、自分のサービスゲームの前であれば取る事が出来る。相手のサービスゲームの前には取る事は出来ない。その時間はポイント間の25秒以内で行うものとする。25秒を超えた場合には、コードバイオレーションが課せられる。

・緊急性のトイレットブレイクにおいては、良識の範囲内で取る事。主審はその旨を選手に伝え、トイレットブレイクを取るように指示すること。また、選手はトイレットブレイクを取り次第、すぐにプレーを開始すること。

・相手選手のMTO時にトイレに行く事が出来る。但しその場合も1回とカウントする。

・主審もトイレに行く事が出来る。その場合は、選手のトイレットブレイクの間またはヒートルールを適用している時間の間に行くこと。